

海老名市立柏ヶ谷小学校 学校運営協議会 議事録
(令和5年度 第1回)

- 1 日時 令和5年5月20日(土) 10:00~12:00
- 2 場所 海老名市立柏ヶ谷小学校 会議室
- 3 委員 山崎久男委員、志村政憲委員、森山輝男委員、植木文夫委員、中垣洋委員、櫻井信夫委員、松本孝夫委員、萩原正規委員、小幡信司委員、齊藤裕子委員、鈴木佳子委員、藤原絵里奈委員、石井友紀(校長)、姫野珠実(教頭) 青山明裕(教務主任)

- 【議題】
- (1) 今年度の学校経営方針と今後の行事等について
 - (2) その他
 - ・6年生「総合的な学習」について
 - ・『社会に開かれた教育課程一覧』について
 - (3) 事務連絡

4 会議の内容

(1) 今年度の学校経営方針と今後の行事等について

石井校長：(資料『令和5年度学校要覧』の児童数、学級数、教職員数、他)

(資料『令和5年度海老名市立柏ヶ谷小学校グランドデザイン(学校経営方針)』)

○柏ヶ谷小学校の概要 ○学校教育目標について

○学校経営方針・めざす児童像について

- ・すべての子どもたちが大切にされる学校をめざす
- ・不登校対策について強化する

○5月8日以降の学校生活について

コロナが感染法上「五類」になったことから、海老名市立小中学校「学校の新しい生活様式」ガイドラインが廃止され、全ての教育活動に制限がなくなった。それでも、引き続き、換気や手洗い、うがいなどの感染症防止への取り組みは継続していく。

○今年度の学校行事について(資料〈主な学校行事予定〉をもとに説明)

12月19日に創立60周年記念式典を予定している。

鈴木委員：わが子のクラスでは9割くらいの子がマスクをしており、周りの様子からもマスクをはずせない様子がうかがえる。夏に向けて、マスクしなくてもよいのだという雰囲気になることを願っている。

給食を対面のグループで食べられるようになり喜んでいた。

松本委員：3月の卒業式で、卒業生一人ひとりが6年間の思い出を呼び掛けていた姿を見て、感動した。袴を着ている児童が多くみられた。華やかでよいが、どの家庭もできることではない。服装について学校では、どのような指導をされたのだろうか。

青山教務：当日の服装は各家庭の判断としている。学校から、この服装がよいという指導は特にしていないが、どのような服装であっても、安全上、履物は上履きということにしている。

萩原委員：袴を着用した卒業式の機会を増やしたいというインターネットニュースをみたことがある。

志村副会長：3年前に長女が袴で卒業式に出席した。それは子どもの願いであり、親としては、子どもの願いをかなえてあげたいという気持ちだ。

齊藤委員：子ども達は、どんな服装で卒業式に出席したいか自分の意見を持っている。袴は禁止という学校もあり、「柏ヶ谷小学校は禁止ではなくてよかった」と言っている。このままの方針でよい。

山崎会長：服装の件で、いじめや仲間外れにつながるような言動はないか。

青山教務：そのようなことは、これまでなかったと認識している。

鈴木委員：パンツスーツ姿の子もいた。中学校の制服もスカートではなく、ズボンを選択している子がいる。多様性が認められる社会になってきていることを感じている。

山崎会長：多様性を認めつつ、いじめ等にならないように、注意深く見守ってほしい。

藤原委員：入学した時からマスクを着けていた子は、はずすことに抵抗があるようだ。マスクをしていない子が大声で話していたり、咳をしたりするのを気にする子もいる。

齊藤委員：子ども達の様子を様々な場面で見ているが、TPOに応じてマスクの着脱ができてきている。

櫻井委員：テレビで、不登校の児童を受け入れている学校の番組を観た。子どもが喜んで学習をしている様子や教師も熱心に勉強を教えている姿がとてもよかった。卒業していった児童が恩師を尋ねるというシーンがあり、感動的だった。

山崎会長：学校経営方針の中の「めざす教師像」にもあるように、魅力のある教員をめざしてほしい。ところで、「不登校対策の強化」とあるが、児童へはどのような対策をしているのか。

石井校長：ぽかぽかルーム（別室登校支援室）という不登校児童が別室で支援を受けられる教室を設置し、活用している。短時間でも登校し、ぽかぽかルームで支援員や教師と学習したり、おしゃべりをしたりして、登校への意欲を少しでも高め、学校とのつながりが途絶えることのないようさらに取り組みを充実させてい

く。

萩原委員：自分は柏ヶ谷小学校の卒業生だが、6年間お世話になった先生のことをとてもよく覚えている。先生方との思い出はよい思い出ばかりで、恩返しの気持ちもあり、この度もPTA会長を進んで引き受けた。きっと、自分と同じように、「いつか柏小のために」という児童も出てくると思う。

齊藤委員：そのような子どもはすでについて、教務の青山先生が初任の頃、柏ヶ谷小学校におられたが、その時の教え子たちが「青山先生のような教師になりたい」といって教育実習に来ている。

山崎会長：学校経営方針の中の「めざす教師像」に掲げられているような教師であるかを時々、自己点検しながら日々の教育活動を行っていただけたらと思う。

藤原委員：学校に行きづらい子、または我慢をしながら登校している子に対して、学校だけの世界がすべてではないことをも、やわらかく伝えられるとよい。学校以外にも、いろいろな人がいろいろな場所で待っていてくれることを伝えたい。

山崎会長：「ICTを活用した新たな家庭学習の在り方の研究」について詳しく説明してほしい。

青山教務：一人一台のタブレットをいかに効率よく活用していくかという研究をしている。今年度は、「ドリルプラネット」というデジタルドリルを契約し、家庭での学習に活用し始めた。その一方で、家庭のWi-Fi環境や端末の不具合でうまく課題に取り組めないという現状もある。

山崎会長：その取り組みの目的は、どのようなものか。

青山教務：学力向上や不登校対策、また、学習ツールの一つとして活用できるようにしていくことなどがある。

萩原委員：わが子がタブレットでデジタルドリルを家庭で行っている様子を見ると、遊びながら学べるという点やプリントの宿題に比べると取り組む意欲が増しているようだ。また、我が家のWi-Fi環境がよい場所は家族が集まる場所なので、学習している様子を親が近くで見られるというところもよい。反面、学習を進めている最中に、操作方法を誤るとすべて白紙になってしまうことがあることや寝そべりながら取り組んでいることもあり、その都度注意はしているが、机に向かって正しい姿勢で学習することが少なくなることが懸念される。

山崎会長：家庭でのタブレットを活用した取り組みの様子を調査したことはあるか。

青山教務：担任が口頭で確認したり、聞き取ったりすることにとどまっている。

山崎会長：より確実に研究の成果を上げるためにも、Wi-Fi環境の状況も含め、各家庭での取り組みの様子について、協力を得ながら情報を集め、現状を分析したらどうか。

櫻井委員：先生方は子どもを怒ることはあるか。

青山教務：怒鳴るのではなく、別の言葉遣いでアプローチをして、正しい方向に導くようにしている。

志村副会長：「自分の思いが伝わればよい」という考えで、わが子にも職場の後輩にも、自分なりの話術で伝えるようにしている。地域のことだが、近頃では、わが子

が怒られたら、なぜうちの子を怒るんだという反応を示されることもあるので、怒る人が少なくなったのではないか。

植木委員：道路で立ち話をしている親とその周りを走り回っていた子ども達に注意したら、小言が返ってきた。同じようなことを何度も経験している。常識については家庭で教えること、また、親（大人）にも教育が必要だと感じる。

中垣委員：日々、先生たちは、不登校問題等について考え、保護者の気持ちを大事にしながら働いている。やはり「めざす児童像」にあるように「がっこうだいすき」と子ども達が思えるような学校運営が一番だと感じている。子ども達が楽しく学校に通える環境づくりに努めてほしい。

櫻井委員：児童と地域の関わりであった「昔遊び」は復活するのか。

青山教務：社会に開かれた教育課程の一環として行っていく。

鈴木委員：資料『社会に開かれた教育課程一覧』にある1年生の「保育園交流」とはどのような活動か。

青山教務：1年生が保育園や幼稚園に行ったり、保育園や幼稚園の園児が小学校の様子を見に来たりする活動だ。1年生が4月から入学する園児に小学校の様子を伝えたりする活動をしている。

(2) その他

・6年生の「総合的な学習」について

青山教務：6年生の「生き方学習」として、講師の方に、ご自身のこれまでの人生や小学校の思い出等を話していただく活動がある。ご協力いただける方は、1学期中にご一報いただきたい。

・『社会に開かれた教育課程一覧』について

小幡委員：表の一番下に「学校施設維持補修作業員による環境整備」とあるが、誰がどのようなことを行っているのか。

石井校長：シルバー人材センターから派遣される方々に校舎回りの除草や畑の整備などをお願いしている。学校施設維持補修作業員の他にも環境整備についてはお願いすることもある。先日、校庭の桜が倒木したが、すぐに海老名市教育委員会の担当部署が造園業者を派遣してくれて翌日には撤去された。

山崎会長：ソメイヨシノは、寿命が60年と言われている。他の桜も安全点検をする必要がある。

松本委員：桜のほかに、危険な木はないのだろうか。

姫野教頭：3年ほど前に、高く伸びすぎて風にあおられると倒れそうなシュロの木を伐採した。また、先日桜が倒木したことを受け、海老名市全小中学校の樹木の点検がされた。本校は、体育館裏の枝垂れ桜の木が危険とみなされ、昨日伐採された。

森山委員：防犯ブザーは児童全員に提供されているのか。また、きちんと作動するかの確認はされているか。

青山教務：小学校入学時に1年生全員に配付している。作動や故障のチェックはしていない。

鈴木委員：チェックについては各家庭で行っているのだと思う。我が家は、学期の始めに電池のチェックを兼ねて正しく作動するか確認している。

松本委員：今年度の音楽会の開催について知りたい。

石井校長：11月24日に開催予定。

鈴木委員：今年度の運動会はどのような形で開催されるのか。以前は表現や徒競走のほかにも、団体競技やPTA種目などがあったが、それらも元通りになるのか。

石井校長：保護者の参観については、人数制限や入替えはしない方向で考えている。種目については半日日程の運動会を検討しているので、表現・徒競走・団体競技の3種目は難しい。3種目のうちのどれをどの学年が行うかは、いくつかのパターンがあり、近隣校でもそれぞれ異なり、様々なやり方があるので、運動会のもち方や種目数を検討しているところだ。

志村副会長：コロナを機に運動会がコンパクトになったことや弁当なしの午前中で運動会が終了する形は個人的にはよかったと思っている。

志村副会長：4年生の「大谷歌舞伎鑑賞」は面白そうな活動でよいと思う。「SDGs出前授業」の講師について知りたい。

青山教務：「SDGs出前授業」の講師は、外部講師を依頼する。

山崎会長：「大谷歌舞伎鑑賞」は、地域に伝わる伝統行事に親しむといった意味でもよい活動だと思う。

山崎会長：3年生で「イチゴの苗提供等」とあるが、海老名の名産を学ぶことはよいことだ。イチゴを育てる活動は毎年行っているのか。

姫野教頭：学年の要望に応じて、市役所の農政課に連絡をして、苗を提供してもらっている。

櫻井委員：図書的时间というものはあるのか。

石井校長：各クラス1時間配当している。図鑑やビジョントレーニング要素の本が人気だが、物語などの本に親しんでほしいと願っている。

鈴木委員：朝学習の時間に読書をすることもある。読み聞かせ活動は継続中で、コロナ前は、昼休み中にボランティアが図書室で児童に対して読み聞かせをしたり、一緒に本を読んだりする活動もしていた。今は図書館支援員の方が週に2回ほど勤務されて、読み聞かせや本の整理や修理をしてくれている。

櫻井委員：1年生は入学して2か月たったが、どのような様子だろうか。

石井校長：学校にも慣れてきて、落ち着いて過ごしている。教室に入るのをいやがっていた児童もいたが、少しずつ教室で過ごせる時間が増えてきた。

5 事務連絡

- ・今年度の学校運営協議会の日程確認

第2回学校運営協議会 令和5年11月24日(金)10:00~12:00

第3回学校運営協議会 令和6年2月23日（金祝）10:00～12:00

・校舎内外の改修工事について

6月末から来年1月にかけて校舎の外壁改修工事と、夏季休業中に蛍光灯をLEDに替える工事がある。